

## 報告書改訂のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別なご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。  
この度、検査提携先(味の素株式会社)より、AICS<sup>®</sup>(アミノインデックス<sup>®</sup>がんリスクスクリーニング)報告書改訂の連絡がありましたのでご案内申し上げます。  
何卒宜しくご了承の程、お願い申し上げます。

謹白



### 項目名

- 男性AICS(5種) (依頼コード No. 13034)
- 女性AICS(6種) (依頼コード No. 13035)

変更日 2017年12月1日(金)報告分より

裏面に続きます

株式会社 **ビー・エム・エル**

本社：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3  
総合研究所：〒350-1101 埼玉県川越市的場1361-1  
☎ 049(232)3131 FAX 049(232)3132

検査項目検索用  
アプリ B-Book



Google play



Available on the  
App Store



電子カルテはビー・エム・エル



## 【報告書の改訂点】

従来版では、「全てのがんの有病率(約1/1000)を1とした場合の、がんである可能性」を表していたのに対し、改訂版では「各種がんの罹患率を1とした場合の、がんである可能性」に変更することで、がん種に即したより正確な説明ができるようになります。

- ① ランク別に示した10,000人中のがんである可能性の人数、および注釈の文言を変更します。(表面)
- ② 解説の文言、および表中の数値を変更します。(裏面)
- ③ 表中に罹患率を表示します。(裏面)

## 表面

### 【従来】

#### ■ がんである可能性

低い ← がんである可能性 → 高い

ランク	ランクAの人 10,000人のうち	ランク	ランクBの人 10,000人のうち	ランク	ランクCの人 10,000人のうち
<b>A</b> AICS値の範囲 0.0~4.9	<b>3人~7人*</b>	<b>B</b> AICS値の範囲 5.0~7.9	<b>13人~21人*</b>	<b>C</b> AICS値の範囲 8.0~10.0	<b>40人~116人*</b>

※各ランク内において人数の幅があるのは、AICS®では部位によってがんである可能性が異なるためです。  
※一般的に、10,000人に約10人が、がんであると言われていました。



### 【新】

#### ■ がんである可能性

低い ← がんである可能性 → 高い

ランク	ランクAの人 10,000人のうち	ランク	ランクBの人 10,000人のうち	ランク	ランクCの人 10,000人のうち
<b>A</b> AICS値の範囲 0.0~4.9	<b>1人~8人*</b>	<b>B</b> AICS値の範囲 5.0~7.9	<b>3人~25人*</b>	<b>C</b> AICS値の範囲 8.0~10.0	<b>32人~109人*</b>

※各ランク内において人数の幅があるのは、AICS®では部位によってがんである可能性が異なるためです。

## 裏面

### 【従来】

●各ランクでのがんである可能性【倍率】 低い ← がんである可能性 → 高い

ランク分類		ランクA	ランクB	ランクC
AICS値		0.0~4.9	5.0~7.9	8.0~10.0
項目	がん種			
AICS(胃)	胃がん	1/3,200[0.3倍]	1/625[1.6倍]	1/98[10.2倍]
AICS(肺)	肺がん	1/2,963[0.3倍]	1/536[1.9倍]	1/111[9.0倍]
AICS(大腸)	大腸がん	1/2,000[0.5倍]	1/789[1.3倍]	1/122[8.2倍]
AICS(膵臓)	膵臓がん	1/3,478[0.3倍]	1/789[1.3倍]	1/86[11.6倍]
AICS(前立腺)	前立腺がん	1/2,222[0.5倍]	1/469[2.1倍]	1/156[6.4倍]
AICS(乳腺)	乳がん	1/1,509[0.7倍]	1/556[1.8倍]	1/250[4.0倍]
AICS(子宮・卵巣)	子宮がん・卵巣がん	1/4,000[0.3倍]	1/682[1.5倍]	1/86[11.6倍]

一般の方が、がんである確率(有病率)を10,000人に10人(1/1000)とした場合の、がんである可能性  
出典:高本直幸・人間ドック 26(3):454-466(2011)を改変 味の素株式会社共同研究プロジェクト 提供

上の表は、がん種ごとに、がんであるおおよその確率をランク別に示したものです。一般的に、10,000人に約10人(約0.1%)が、がんであると言われていました。例えばAICS(胃)では、胃がんの有病率(一般の方が、胃がんである確率)を10,000人に10人とした場合に、ランクAでは3,200人に1人が、ランクBでは625人に1人が、ランクCでは98人に1人が、胃がんであることを示しています。

【 】内は一般の方の有病率を1とした場合の、がんである倍率を示しています。

### 【新】

●各ランクでのがんである可能性【倍率】 低い ← がんである可能性 → 高い

ランク分類		罹患率*	ランクA	ランクB	ランクC
AICS値			0.0~4.9	5.0~7.9	8.0~10.0
項目	がん種				
AICS(胃)	胃がん	0.1036%	1/3,088[0.3倍]	1/603[1.6倍]	1/95[10.2倍]
AICS(肺)	肺がん	0.0887%	1/3,342[0.3倍]	1/604[1.9倍]	1/125[9.0倍]
AICS(大腸)	大腸がん	0.1325%	1/1,510[0.5倍]	1/596[1.3倍]	1/92[8.2倍]
AICS(膵臓)	膵臓がん	0.0273%	1/12,744[0.3倍]	1/2,893[1.3倍]	1/316[11.6倍]
AICS(前立腺)	前立腺がん	0.1179%	1/1,885[0.5倍]	1/398[2.1倍]	1/133[6.4倍]
AICS(乳腺)	乳がん	0.1264%	1/1,194[0.7倍]	1/440[1.8倍]	1/198[4.0倍]
AICS(子宮・卵巣)	子宮がん・卵巣がん	0.0858%	1/4,660[0.3倍]	1/794[1.5倍]	1/100[11.6倍]

各種がんの罹患率を基にした場合の、がんである可能性  
出典:味の素株式会社共同研究プロジェクト 提供

上の表は、がん種ごとに、現在がんであるおおよその確率をランク別に示したものです。例えばAICS(胃)では、ランクAでは3,088人に1人が、ランクBでは603人に1人が、ランクCでは95人に1人が、胃がんであることを示しています。

【 】内は各種がんの罹患率を1とした場合の、がんである倍率を示しています。

\*罹患率は、2012年の全国年齢別推定罹患率(出典:国立がん研究センターがん情報サービス:地域がん登録全国推計によるがん罹患率データ(1975年~2012年))に基づき、%表記に換算しています。